

弘前大学男女共同参画推進室 Newsletter



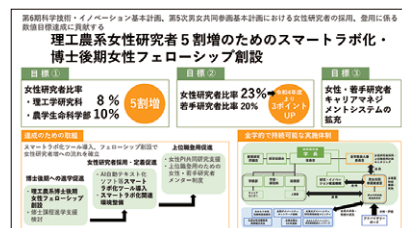
弘前大学は2019年5月に「弘前市女性活躍推進企業」に認定されました。

科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特性対応型）」に採択されました

本学は昨年9月、令和4年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特性対応型）」に選定されました。「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」は、日本における女性研究者比率が諸外国に比べて低いことなどを背景として、研究とライフイベントとの両立や女性研究者の研究力向上を通じたリーダー育成を一体的に推進するなど、研究環境のダイバーシティ実現に関する目標・計画を掲げ、優れた取組を実施する大学等を対象に、重点支援を行うものです。その中でも、「特性対応型」では、分野や機関の研究特性や課題等に対応し、研究効率の向上を図りつつ、女性研究者の活躍を促進する取組が補助されます。

本学のプログラム「理工農系女性研究者5割増のためのスマートラボラ・博士後期女性フェローシップ創設」では、男女共同参画推進室が中心とな

り、スマートラボラ化ツールの導入による研究効率向上や、女性研究者比率の増加が停滞している理工学分野と農学分野の博士後期課程の女性大学院生を対象としたフェローシップ制度創設、女性研究者・若手研究者のキャリアマネジメントのシステム拡充に取り組みます。事業の実施期間は令和4～9年度で、以上の取組を通じて理工学研究科と農学生命科学部の女性研究者5割増、大学全体の女性研究者比率23%の達成をめざして、さらなるダイバーシティ研究環境の推進を図ります。



女性研究者、大学院生アンケートを実施しました

男女共同参画推進室では昨年4～5月、本学の女性研究者と大学院生をそれぞれ対象とした「女性研究者の実態・支援ニーズに関するアンケート」（回答率：34.5%）と「大学院進学に関するアンケート」（回答率：26.7%）をオンラインで実施しました。全教職員を対象とした「弘前大学男女共同参画推進のための意識・実態調査」は5年に1度実施されていますが、直近の取組に活かすため、本学の女性研究者比率や大学院進学の実態をふまえて対象者を限定して行いました。

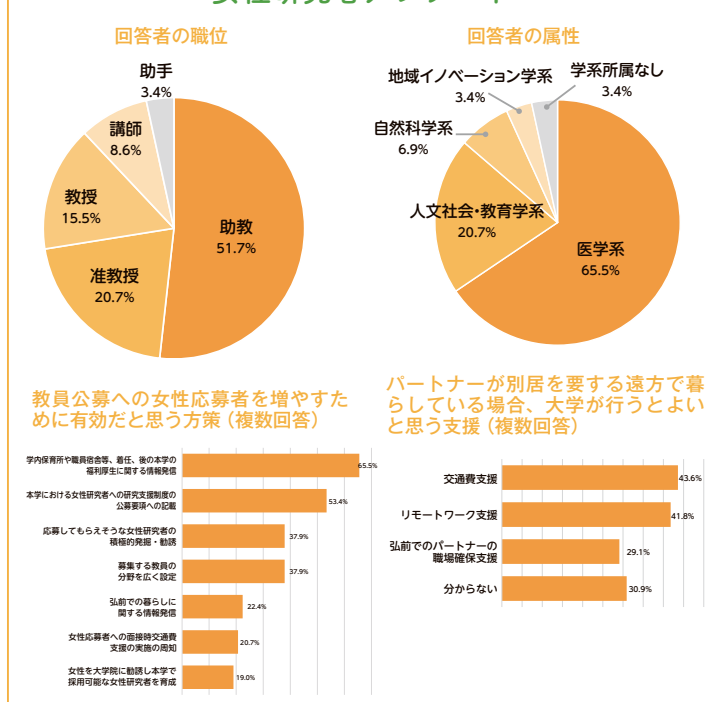
女性研究者のアンケートでは、プロモーションメンター制度や女性研究者を研究代表者とする共同研究支援など現在実施中の支援策の認知度や活性化策、教員公募への女性研究者からの応募増のための方策、パートナーがいる場合で別住まいの場合の支援策などについて尋ねました。回答から、回答した女性研究者の約3割がパートナーがいるものの別住まいとなっていることや、その際の支援策として「パートナーを月2～3回訪問可能な

交通費支援」（43.6%）や「リモートワーク支援」（41.8%）が望まれることなどが明らかになりました（n=58）。

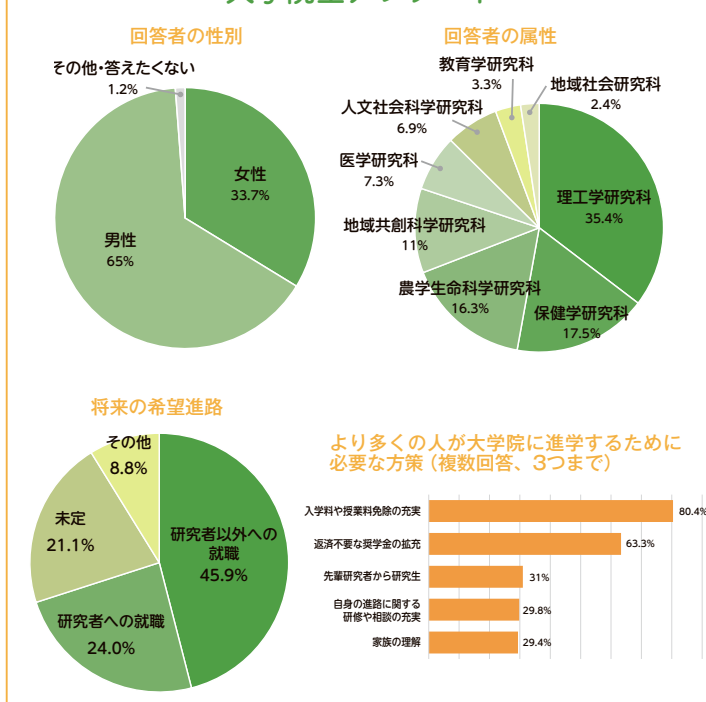
大学院生のアンケートでは、進学の動機、将来の希望進路、より多くの人が大学院に進学するために必要な方策などについて尋ねました。より多くの人が進学するために必要な方策については、「入学金や授業料免除の拡充」（80.4%）、「返済不要な奨学金の拡充」（63.3%）などが多く選ばれました（n=246）。

以上の調査で明らかになった状況やお寄せいただいた意見は、上記の補助事業や男女共同参画推進室の令和5年度の事業計画策定などに反映されています。アンケート結果（速報）は昨年5月の男女共同参画推進委員会に報告されました。詳細な結果は、本年度末までに男女共同参画推進室のホームページに掲載予定です。本アンケートにご協力くださった方々に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

女性研究者アンケート



大学院生アンケート



女性研究者を研究代表者とする共同研究を支援しています

本学においては、研究者全体に占める女性比率だけでなく、女性研究者では職位が上がるにつれて比率が下がることも課題のひとつとなっています。このため、男女共同参画推進室では、女性研究者の研究力、リーダー力、マネジメント力向上と、地域における研究活動の活性化などを目的として、本学の女性研究者が研究代表者となる共同研究課題を支援してきま

した。本年度は以下の4つの課題（下表）を採択し、支援しています。

令和5年度分の本取組については、4月にご案内し、6月頃から支援を開始する予定です。詳しくは、次号のさんかくつうしんや男女共同参画推進室ウェブサイト、各部局総務グループを通じたメールでのご案内などをご確認ください。

研究課題	研究代表者	代表者の所属	共同研究者の所属
図画工作科の「造形遊び」における造形性と美的感情の相互作用に関する研究	佐藤 絵里子 准教授	教育学部	柴田学園大学 弘前大学
温泉スケールのモニタリングとその利活用法の開発	若狭 幸 助教	地域戦略研究所	東北化学薬品株式会社 弘前大学
髄膜脳炎を引き起こすバラムチア・マンドリラリスの共生細菌の同定と培養法への応用	山内 可南子 助教	保健学研究科	北里大学 弘前大学
線虫 <i>Caenorhabditis elegans</i> を用いたサルコペニア予防のための食品成分の探索	山元 涼子 助教	農学生命科学部	岩手大学 弘前大学

さんかくダイアログを開催しました

男女共同参画推進室では昨年7月以降、オンライン（Microsoft Teams）で「さんかくダイアログ」を開催しました。「さんかくダイアログ」は、男女共同参画やダイバーシティについて気軽に参加でき、自由に語り合える（ダイアログ[対話]できる）場を提供したいとの考えから年度に数回開催されているものです。

第1回（7月）は、English Lounge Forum、International Hiredai コラボ企画としてイングリッシュラウンジでの対面会場も含めて、「家族再考：日本におけるレインボーファミリーの現実」をテーマに開催されました。

第2回（10月）は「改正された育児休業、新設された不妊治療休暇について」をテーマに、育児介護休業法の改正にともなって見直され、昨年10月に施行した本学の産休や育休、新設された不妊治療休暇などについて、人事課からお話をいただきました。（この回の動画は、男女共同参画推進室ホームページにて学内限定で公開しています。改正された制度にご関心のある方は、ぜひご覧ください。）

第3回（11月）は、公募によるテーマ『デュアルキャリアカップル』を考える』について開催しました。「デュアルキャリアカップル」は、それぞれに仕事を持ちながらパートナーシップを結ぶカップルのことを指しますが、特に研究者ではパートナーと離れて暮らさざるを得ない場合があり、本学にも、そのような状況の研究者が少なくないという現状をふまえて、企画提案者である地域創生本部の辻本侑生助教からの話題提供と意見・情報交換が行われました。

第4回（11月）は、話題提供者に理工学研究科の岡崎雅明研究科長をお迎えし、理工学系分野に関する女子学生比率などの現状、入試における女性枠設定を含む他大学の取組、研究科での取組、今後の取組に向けた提案などについてお話をいただきました。この回は、さんかくダイアログ初の試みとして、部局の協力により部局のFD・SD研修会に位置づけられ、参加対象をその部局に所属する教職員に限定した形で行われました。計4回の本企画には、のべ約70名にご参加いただきました。



第2回さんかくダイアログ（改正された育児休業、新設された不妊治療休暇について）より



第4回さんかくダイアログ／理工学研究科FD・SD研修会より

北東北国立3大学男女共同参画シンポジウムが開かれました

本学、秋田大学、岩手大学は、平成22年度から男女共同参画推進について連携し、年度に1回、男女共同参画シンポジウムを持ち回りで開催しています。本年度は岩手大学が当番校となり、昨年9月に「男性の育児休業を応援する職場が選ばれる? 『2030』時代の大学・企業と育児参加支援」がオンライン（Zoom）で開催されました。3大学における取組紹介や、独立行政法人労働政策研究・研修機構の藤澤美穂総括研究員による講演「男性の育児休業取得に積極的に取り組む企業の事例からのヒント」、「大学・企業は男性育休をどう支援できるのか」をテーマとしたパネルディスカッションなどが行われました。

講演では、男性の育児休業取得に積極的に取り組む13の企業へのヒアリング調査にもとづき、特に有効な取組として、経済的支援、トップによる発

信、男性職員本人・上司等への働きかけが、複数の企業に共通していたことが紹介されました。また、男性の育休取得の効果は、取得者本人だけでなく、職場にもあり、一例として、職場全体での仕事の進め方の変化、風土の変化、人材確保にあたつてのPR効果などが挙げられました。本学の取組紹介は、男女共同参画推進室の藤崎浩幸室長が行いました。



本学の取組について発表する藤崎浩幸室長

教職員のみならず部局でお使いいただける支援策、さまざまな取組をHP・Twitterで発信しています

子育て・介護中の研究者への研究支援員の配置や託児利用料補助をはじめとする教職員個人を対象とした支援策、スタートアップ経費支援などの部局を対象とした支援策、さんかくダイアログや各種セミナーの開催など

について、男女共同参画推進室ホームページやTwitterで情報発信しています。ぜひご覧ください。次号のさんかくつうしん（3月発行予定）でも、引き続き支援策や取組についてご紹介する予定です。